



生駒市立生駒台小学校

2025年12月22日

学校だより No.12



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

今年度は、4月17日に「全国学力・学習状況調査」(実施対象:小学6年生)が実施されました。この結果は、児童の学力の全てを把握するものではなく学力の特定の一部を示しているのですが、これを分析して課題を明確にし、今後の学習活動や生活の改善に活かしていくことが重要と考えています。職員間でも確認しあった本校の調査結果の概要を示します。

【教科に関する調査(国語・算数・理科)】

- ・本校の平均正答率は国語も算数も奈良県平均・全国平均に比べて高いですが、理科は奈良県平均・全国平均に比べて少し低い結果でした。
- ・国語では、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る問題の正答率は全国平均より高く、日頃から漢字練習を繰り返し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付いていることが分かります。
- ・「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握したり、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」ができるようになってきましたが、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に、課題があることが分かりました。
- ・算数では、全体の平均正答率だけでなく計算力も高い結果となっています。教科書の問題だけでなく、ドリルやプリント、タブレットを使い多くの問題を解いている成果であると考えます。また、授業で自分の考えを説明する活動を積極的に行っているので、「式や言葉を用いて記述する力」も徐々に向上してきています。学校では一人一人のつまずきを確認しながら主体的な学びとなるように学習を進めていますが、児童も熱心に学習に取り組んでいることがうかがわれます。
- ・理科では、「変える条件と変えない条件を整理しながら、実験や観察など解決の方法を発想し、その方法が適切かを検討する力」は身についていますが、全体的に理科的な知識や技能が低い結果です。学習内容を他の学習や生活と関連付ける活動を増やしたり、実験や観察を一人一人に実際に経験させたりと、体験的に知識や技能を習得することができるよう授業を進めていきたいと考えます。



生駒台小学校 学校目標 「歩いていこう 自分から」

- 本校では、今年度の研修主題の中心である「汎用的基礎読解力の育成」に重点を置いて授業研究や研修を進めています。日々の授業において読解力向上を意識した学習や活動を多く取り入れるとともに、全国・学力学習状況調査の問題を授業に活用し授業改善につなげていきます。
- 主体的な学びに向けて、個別・協働の学び、探究的な学びなど、授業における様々な場面でICTを効果的に活用し、一人一人が自分らしく学び、「わかった・できた」喜びを感じられる教育をすすめることで、本校の児童の課題を克服していきます。

【学習状況(児童質問紙)】

- ・「自分にはよいところがある」「将来の目標や夢をもっている」に肯定的な回答をした児童は、それぞれ82.1%と85.4%でした。これからも自尊感情や自己有用感を高める取組を継続し、学校生活の様々な場面で児童が自分の役割を果たし満足感や達成感を得られる機会、集団活動の中で自他のよさを認め合いながら主体的に取り組む機会などの充実を図ります。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」に肯定的な回答は、95.1%。「人が困っているときは進んで助けている」は96.7%と高い値で、相手の気持ちを思いやる優しい心が育っていることがうかがわれます。引き続き、思いやりの心を育むとともに、「いじめ防止基本方針」に沿って、互いを認め合い、いじめを絶対に許さない心の育成に努めていきます。
- ・家庭学習について、1時間以上と回答した児童は、平日で56.1%、休日で23.6%でした。家庭学習の時間の目安が「学年の数字×10分」であることを考えると、6年生で1時間程度の家庭学習の定着が必要です。基礎的基本的な力の定着を図るとともに、高学年では主体的な家庭学習のあり方について検討し取組を進めているところです。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」に肯定的な回答は82.1%で、全国や県平均と比べても高値でした。学校ではキャリア教育にも力を入れて取り組み、学びを実生活と結び付けて、よりよい地域社会をつくる一員としての自覚の向上を図る取組を進めています。今後も、コミュニティ・スクール(地域学校協働活動)などを通して、地域社会と連携した教育活動を行っていくことが重要だと考えています。



や県平均と比べても高値でした。学校ではキャリア教育にも力を入れて取り組み、学びを実生活と結び付けて、よりよい地域社会をつくる一員としての自覚の向上を図る取組を進めています。今後も、コミュニティ・スクール(地域学校協働活動)などを通して、地域社会と連携した教育活動を行っていくことが重要だと考えています。

- ・「学校に行くのは楽しいか」に肯定的な回答をした児童は82.1%で、昨年度より高くなりました。「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せなきもちになることはどれくらいあるか」に90%以上の児童が肯定的な回答でした。

- ◎これからも、一人一人の個性を大切にし、思いに寄り添いながら、「**自分から 自分らしく**成長できるように教育をすすめ、「**学校に行くことが楽しみ**」と誰もが思える台小を目指していきたいと考えています。



☆今後も、保護者・地域の皆様のご理解ご協力よろしくお願ひいたします。